

島ネコ マイケルの大引っ越し(絵本)を配布します

(お知らせ)

1. 絵本の表題等

島ネコ マイケルの大引っ越し

ーヒトとペットと野生動物が共存できる社会をつくる人たちのお話ー
(14ページ+表紙・裏表紙、フルカラー)

2. 配布先

小笠原村の住民全戸と(社)東京都獣医師会に所属する動物病院へ配布します。
希望者には、環境省 小笠原自然保護官事務所において配布しています。

3. 経緯と内容

(1) 背景

小笠原は海洋島としての独特の島嶼生態系を有し、独自の進化を遂げた小笠原固有の生物種が多く、国内のみならず世界的にみても希少かつ固有な自然環境を有することから、国立公園にも指定されており、世界自然遺産の候補地の一つともされています。しかし、近年では外来種による影響等により、固有種・希少種の減少や自然環境の劣化が進行しています。特に、地球上で40羽しかいないと言われるアカガシラカラスバトがいる父島東平や、小笠原で唯一有人島にある海鳥繁殖地の母島南崎のように、自然環境豊かな地域にネコが容易に分け入り、希少な鳥たちを捕食して絶滅の危機に追い込んでいるような例も見られています。

(2) 絵本の内容

この絵本に描かれたお話は母島南崎において実際にあった話です。小笠原の有人島唯一の海鳥の繁殖地である南崎では、近年海鳥の数が減っており、たくさんの海鳥の死体が発見されました。自動撮影カメラに写っていたのが、この絵本の主人公「マイケル」たちによるカツオドリ捕食の様子です。そこで各行政機関と地元研究者と住民の協力によりネコを捕獲しました。

しかし、捕獲後のネコの扱いが問題となりました。関係者との協議により、島外へ搬出して、東京都獣医師会に所属する獣医師たちに引き取りを依頼することになりました。「鳥は小笠原でしか生きられないけれど、ネコは都会でも幸せになれる。」という獣医師さんの言葉もあるとおり、ネコも鳥も幸せになる捕獲プロジェクトのお話です。

(3) その後

この後、南崎には母島住民とNPO 小笠原自然文化研究所によりネコ侵入防止柵が仮設され、この3月末には、環境省により新しくネコ侵入防止柵が建設されたところです。また、関係行政機関と

民間の関係者により「小笠原ネコに関する連絡会議」が設けられ、多くのボランティアの参画を得ながら、この連絡会議によって父島母島両島でネコの捕獲は続けられ、内地の獣医師に飼養されています。

問い合わせ先

環境省 関東地方環境事務所 小笠原自然保護官事務所

首席自然保護官：中山 隆治

担 当：沼田 伸一

〒100-2101 東京都小笠原村父島 字西町 ガゼボ 2階

TEL：04998-2-7174 FAX：2-7175